

授業科目名	子どもの保健	担当教員名	七田 つたえ
必修/選択	必修	開講学年・学期	3年 前期 (年間開講数 1講座)
科目区分	教職・保育に関する科目	単位数	2単位 (30時間)
施行規則に定める科目区分等	保育の対象の理解に関する科目	授業方法/担当形態	講義 / 単独
		特記事項	※実務経験のある教員等による授業 看護師としての実務経験を活かして、実例を多く取り上げて授業を行っている。
授業の概要及び全体目標	母子保健活動を軸に養育環境の重要性、事故の特徴、かかりやすい病気の知識と症状への対応、予防接種を含めた感染症予防などについては医学的な根拠をもとに知識を身につける。実務経験のある助産師が具体的な事例を示し、写真やイラスト映像など視覚的情報も活用して理解に役立てる。技術的には「子どもの健康と安全」の授業で適切な対応ができるようスキルを身につける。関連する各ガイドラインを活用し保育所での取組みや保育士として実践できるよう取り入れる。		
到達目標	<p>子どもの健康は子ども自身が守れない。大人の責任でもあるから専門職としてなすべきことの具体的な知識技術を身につける。また、保育士として関連する母子の法律や制度などを学び社会で担う役割を習得する。</p> <p>①子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 ②子どもの身体的発育・発達と保健について理解できる。 ③子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解できる。 ④子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。</p> <p>(1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 (2)子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 (3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 (4)子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での 適切な対応について理解する。</p>		
テキスト	子どもの保健 ななみ書房		
参考書・参考資料等	保育所における感染症対策ガイドライン 配布資料は穴埋め式とする		
成績評価の方法	○授業終了後の感想レポート (40%) ○課題提出 (30%) ○配布資料の管理 (30%)		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	1章 子どもの心身の健康と保健の意義 (科目の授業概要、子どもの年齢による区分、WHOの健康の定義、成長・発達の意味) 2章 子どもの身体的発育・発達と保 (生物としての人の成り立ち、生命誕生)	①,②,③,④	
第2回	1章 子どもの心身の健康と保健の意義：健康の概念と健康指標 (健康の測定：人口動態統計、子どもの特徴的な死 (SIDS・SBS))	①,④	
第3回	2章 子どもの身体的発育と保健：乳幼児期の身体発育の概要 3章 子どもの心身の健康状態とその把握：発育・発達の把握と健康診断 (発育の評価：健康診断、発育曲線、カウプ指数)	①,②,③,④	
第4回	1章子どもの心身の健康と保健の意義：現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 (児童虐待の定義、児童虐待のサイン)	①,④	
第5回	1章子どもの心身の健康と保健の意義：現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 (虐待と成長障がい、児童虐待の定義、子どもの権利条約)	①,④	
第6回	1章 子どもの心身の健康と保健の意義：母子保健施策 (健康診査、保健指導)	①,②,③,④	
第7回	1章 子どもの心身の健康と保健の意義：母子保健施策 (健やか親子21、主な母子保健と保育)	①,②,③,④	
第8回	2章 生理機能の発達と保健： (呼吸機能、循環機能、免疫機能、消化機能)	②,③	
第9回	2章 生理機能の発達と保健： (尿排泄機能、水分代謝、体温調節、内分泌機能)	②,③	
第10回	2章 生理機能の発達と保健： (睡眠・覚のリズム、感覚機能の発達、神経機能の発達)	②,③	
第11回	3章 子どもの心身の健康状態とその把握：健康状態の把握の観察	③,④	
第12回	3章 子どもの心身の健康状態とその把握：心身の不良時の早期発見	③,④	
第13回	4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応：保育の現場でよくある疾患 (感染症と予防接種、保育所における感染症対策ガイドライン)	③,④	
第14回	4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応：保育の現場でよくある疾患 (麻疹、水痘、帯状疱疹、手足口病、流行性耳下腺炎、インフルエンザ)	③,④	
第15回	4章 子どもの疾病の予防及び適切な対応：保育の現場でよくある疾患 (RSウイルス、アタマシラミ、ノロ・ロタウイルス、伝染性膿痂疹、伝染性膿痂疹)	③,④	
定期試験	定期試験は実施しない		